

At a Glance

キリングループは、「食と健康」をドメインとして、酒類、飲料、医薬・バイオケミカルを中核とした事業をグローバルに展開し、「新たな価値の創造」にチャレンジしています。

日本総合飲料事業

2016年度実績

売上高

11,532 億円

売上構成比率

56%

営業利益

672 億円

資産

8,216 億円

5か年業績推移



主要会社

- ▶ キリン(株)
- ▶ キリンビール
- ▶ キリンビバレッジ
- ▶ メルシャン

海外総合飲料事業

2016年度実績

売上高

5,614 億円

売上構成比率

27%

営業利益

433 億円

資産

9,327 億円



- ▶ ライオン
- ▶ ブラジルキリン
- ▶ ミャンマー・ブルワリー※

※ 損益の連結への取り込みは2016年度からです。

医薬・バイオケミカル事業

2016年度実績

売上高

3,357 億円

売上構成比率

16%

営業利益

347 億円

資産

7,207 億円



- ▶ 協和発酵キリン
- ▶ 協和発酵バイオ

事業内容

日本総合飲料事業は、麒麟ビール、麒麟ビバレッジ、メルシャンを中心に、日本国内で酒類、飲料の製造、販売を行っています。地域統括会社である麒麟(株)が、酒類、飲料の枠を超えた経営資源の配分を行うことにより主力ブランドを強化するとともに、ブランドメッセージである“Quality with Surprise”のもと、お客様の「健康」や「人と社会のつながり」といった社会課題と向き合いながら、卓越した品質とおいしさで、驚きや感動につながる価値創造に取り組んでいます。

また、麒麟ブランド商品のアジア、欧米などの地域での販売拡大も行っています。

主要商品・製品



キリングループは、積極的な海外展開で獲得した事業基盤により、酒類、飲料等の製造、販売をグローバルに行っています。各事業会社が自律的に経営を進めながら、持株会社である麒麟ホールディングスが戦略の策定と実行、課題解決に積極的に関与し、事業の成長ポテンシャルの最大化を図っています。

同時に、新KV2021を共通のビジョン、戦略フレームとし、海外事業会社それぞれが持つ強みと日本で培われた技術力等の強みを相互に活用することで、グループ全体の成長につなげています。



2008年、協和醗酵工業社とキリングループの医薬事業を行っていた麒麟ファーマが合併し、現在の医薬・バイオケミカル事業を担う協和発酵麒麟が誕生しました。

医薬事業では、最先端のバイオテクノロジーを基盤とした医療用医薬品の開発、製造、販売を行い、バイオケミカル事業では、発酵と合成の革新的技術を駆使した、医薬・医療・ヘルスケア領域のニーズを満たす高付加価値機能性素材を提供しています。

